

たむらソーシャルネット ニュース

秘められた力を信じて

有限会社たむらソーシャルネット

田村 陽子

冬、春、夏、秋、そして冬という四季を感じながら、慌しく新しい事務所での時間は流れました。会社も六年目に入りました。商店街に面した立地から、ちよつと覗いていたかどうかという機会も増え、「ここは何をするところなんや？」そういつて関心を抱いていたときが、地域の「新人」として嬉しく思う瞬間です。

また、以前から支援させていただいている方々も、この五年間に、年齢を積み重ねられました。特に高齢の方は、目の前が「百歳」という方々もおられます。ある日、独り暮らしで九十代半ばの方が、足を骨折されたと聞き、誰もが今後の生活を思い描くことに、気の重たさを感じたものでした。運び込まれた病院ですぐに手術をされたものの、その後の寝たきり生活と大きな声を出す姿に遠くに住む娘さんと話あい、独り暮らしで暮らす自宅へ退院を決めました。以前は歳だからと外出も食事もほと

んどしなかった方でした。退院後

時間が流れるなかで、「我が家を守れるのは、私だけだから」とま

るで別の方のように変わられませんでした。食欲旺盛、支えがあれば歩

く姿も目にする事ができます。「はったい粉」ブームの火付け役

となり、身体にいいと、食べ方を私達に教えてくださいます。別の九十歳の方は、先日隣り合わせた赤ん坊相手に、鳩の物まねや、踊りを見事な笑い顔へ。それを見ていた若い母親や周囲の方々から、「おばあちゃん、元気をありがと

う」。気遣いを忘れたと言われ始めていた方だけに、笑顔で応える姿は雄姿そのものでした。加齢を理由に、ある面の機能が低下されることのみならず、私達は注目していかないだろうか。人としての可能性の偉大さに立ち会える幸運を忘れず、私達がその可能性を信じ、発揮できる環境の一助になりたくてと決心する毎日です。決心を実行に移せるよう、よろしくお願いたします。

医療側の反省

田中小児科医院

田中祥介様

たむらソーシャルネットとの出会いは以前に私が勤めていた愛染橋病院のソーシャルワーカーの方から田村満子さんを紹介されたことからです。彼女の印象が強烈になったのは、彼女が共同後見されていたKさんとの関わりに接していたからです。広範

な出血性脳梗塞、廃用性四肢麻痺、失語症を併発されている方で、言葉は出ないですが田村さんとはなぜか意思の疎通がありました。最期は腎不全で入院され、病院で亡くなられたのですが、その最期の接し方が強い印象を私に残しました。医療側は、重症患者で

は医療行為が多く生活を支える行為がおろそかになってきます。Kさんも在宅で過ごされてきた時に比べて清潔保持などの生活行為を支えるケアは不十分だったと思います。田村さんは清潔好きの彼女にとってはこの生活はがまんできないと、しゃべれない彼女の意図を感じ取ったのか、亡くなる直前の彼女の誕生日に外出させ、風呂に入れてあげ、散歩をし、誕生日

のお祝いをしました。私も少しだけその現場に居合わせたのですが、人間の意志と尊厳を最期の最期まで尊重しようとする姿勢は感動的でした。田村さんの意

図に共感し、主治医、看護師もその行動を援助していました。チームとしての連携も心を強く打ちました。この時に、このグループと一緒に仕事が出来ればと思

いました。最近、在宅で胃癌の方を看取りました。この時も田村さんのグループは最期の最期まで、いつもと変わらず身体を拭く、パジャマを代える、身なりを整えることをして頂きました。医療側は、「いつ息をひきとられてもいい状態です」と宣告すると、それまでの日常的

なケアはおろそかになりがちです。しかし、たむらソーシャルネットは最期まで、普段と変わらないケアを提供し続けていただきました。ご家族も非常に喜んでおられました。たむらソーシャルネットと関わって人生の最期の最期まで、人間の尊厳を守る姿勢の大切さをあらためて教えられました。今後ともよきパートナーとして、少しでも感動をおぼえる仕事ができればと思っております。

たむらひファミリーネット活動報告

今年一年の活動報告です。昨年から引き続き実施している活動や、少し形を変えて行っている活動もあります。

◆◆訪問介護事業◆◆

【介護保険サービス】

介護保険制度における「サービス提供事業所」の指定を大阪府より受けております。皆さまのご自宅におうかがいし、サービス提供を行います。

平成十六年十月現在 利用者数 二十四名

【介護保険外サービス】

介護保険外の介護、外出支援などを行います。施設入所されている方、外出支援や病院へ入院されている方を訪問し、話相手や散歩、買い物、の同行も行っています。

平成十六年十月現在 利用者数 八名

◆◆居宅介護支援◆◆

【ケアプラン作成】

ケアプランの作成や介護保険の申請代行、介護保険でのサービスを「どこで」「どのくらい」受けるのかといったサービス計画を作成します。介護保険利用の相談も受けています。

平成十六年十月現在 利用者数 三十三名

◆◆サロン◆◆

生活リズムを整える、昼間の過ごし方を再構築するための場として個別対応に努めております。特にプログラムを設けず、参加メンバー、天候、健康状態により過していただいております。春には花見、夏には水上バスで水の都を見てまわりました。

平成十六年十月現在 利用者数 九名

◆◆リビングスペース◆◆

地域で、より家庭的らしく暮らしていただくために、複数の方と一緒に暮らしていくスペースを提供しています。

た、ケアに関しては介護保険利用者には介護保険制度を優先的にご利用していただいておりますが、夜間の見守りや外出支援などは、ご本人の状況に応じて当社独自の「介護サービス」「生活支援サービス」等を組み合わせて対応させていただいております。今年度は特別養護老人ホームに入所されている方が、新しい生活を考える機会に、十日間外泊の利用をされました。

また、体験宿泊で、山口県と兵庫県から来られた方もおられます。一人一人の希望に添えるようサービスの充実を図っております。

平成十六年十月現在 利用者数 二名

◆◆講師派遣◆◆

さまざまな関係先で講師活動をさせていただき、ありがとうございます。また、ご意見・ご要望などありましたら、ぜひお願い致します。

講師分類別構成比(%)

講師先	構成比
公的機関	17.6
大学	46.4
職能団体	22.5
民間	13.6

◆◆相談事業◆◆

個人や法人との契約に基づいて、年間を通じて様々な相談に応じています。今年には特にすでに施設サービスを利用されている方々からの相談に応じる機会が重なりました。

◆◆勉強会◆◆

利用者の方々へより良いサービスが提供できるよう、月に一度勉強会を実施しています。内容は食中毒を防ぐ方法、疥癬、こころの病についてなどです。外部より講師をお招きすることもあります。今後とも勉強を重ねていきたいと思っております。

編集後記

ニュース発行にあたり、ご協力くださいました田中様、和田様、仲畑様、小幡様、野木様、緋田様、藤井様、西野様ありがとうございます。今年には空堀商店街に引越してきて、段々と馴染んできたところ。これからもより一層頑張っていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

〒542-0012

大阪市中央区谷町6丁目14-23

TEL 06-6766-7071

あんなに忙しむお母さん

トビウオイロイロ

◇ たむらソーシャルネット訪問介護
◇ 事業をご利用のみなさまからさま
◇ さまな『声』をお聞きしました。

和田 千代子様

『空堀を歩いています』

和田さんは九十三歳、長男、夫婦と同居され、たむらソーシャルネットでは外出介助させて頂いています。空堀商店街を歩いていると何人もの方が声をかけて下さり、その度に和田さんは、「ほら、歩けるようになります」と笑顔で答えておられます。骨折し入院。退院後は歩けるようになるの心配しましたが、デイサービスや外出介助のお陰で、車いすではなく、押し車で外出できるようになりました。ご家族の方は「近所の人たちに声をかけてもらい、それが励みになっているようです」と話されています。

和田さんはコーヒーとおしゃべりが好きで、友達とよくモーニングサービスを注文

していたそうです。「友達は先に逝ってしまったけど、空堀は知人が多く、昔から変わらないから好き!」とのこと。和

和田さんと一緒にいると笑いが止まりません。まわりの人を笑いの渦に巻き込む、ユーモアのあるとても素敵な人です。

M・N様

『出来ることは自分で』

Nさんは八十九歳。ご親戚と同じ建物で一人暮らしをされています。平成十五年四月に退院後からヘルパーを利用されています。当初は外出も、付き添いが必要で、独力で出来ることは少なかったのですが、『出来ることはしないと出来なくなってしまう』と、ヘルパーの訪問の度、「洗濯は出来ます」「お風呂は一人で入れます」「今度は通院も一人で行ってみます」…と少しずつ出来ることを増やされ、現在は週1回の掃除の訪問のみになっています。

近所のスーパーや心斎橋大丸に週2回ほど買物に行かれ、「昔から知っている人に声をかけられるのは嬉しい」と話されています。出来ることは自分で、という前向きな姿勢に、いつも頭が下がる思いです。



小幡 喜代司様

『趣味を生かす』

たむらソーシャルネットのサロンスペースに展示してある絵をご存知でしょうか。区役所で個展を開いたり、公共施設や、お住まいのマンションに絵を寄付したりされているほどの腕前の、小幡喜代司さんが描かれたものです。小幡さんは娘さん家族と同じマンションで一人暮らしをされています。

ヘルパーの利用は、掃除と洗濯で週1回です。近頃ではお元気な頃の『日本画を描く』趣味を再開され、昔描いたスケッチを元に、作品を仕上げていらっしゃるようです。先日は「気候が良かったら、スケッチに出掛けて新しい作品を描く」とおっしゃっていました。

小幡さんを訪問させてもらう度、年を重ねても趣味を持って、生き生きと過ごされるのはすばらしいと思います。

俳句コーナー

嵐吹く残る

今宵は

夜半の月

西野 惠三郎

なにくそと

言うて立つ身の

つらさかな

藤井 はるゑ

習字コーナー

水上バスで
大阪見物
です

高津の桜

